

2023
vol.62
no. 1

写真測量とリモートセンシング

目次

〈巻頭言〉日本リモートセンシング学会の設立40周年後の活動	若林裕之	1
〈カメラアイ〉ブルーカーボン生態系におけるリモートセンシング技術の活用	吉田夏樹, 宇野女草太, 和田のどか	2
〈原著論文〉車両部位識別のための再帰的能動学習に関する研究	中畑光貴, 山本雄平, 今井龍一, 神谷大介, 田中成典, 中原匡哉	4
〈原著論文〉UAVを用いたBRFを考慮したオルソ画像生成手法	村井亮介, 高木方隆	22
〈研究速報〉CバンドおよびLバンドSARデータを併用した機械学習アルゴリズムによる作付作物分類に関する研究	山谷祐貴, 木村篤史, 小林伸行	30
〈活動報告〉G空間EXPO2022シンポジウム 「自然資本・生物多様性に対する地球観測衛星の貢献」の開催報告		38
〈表紙説明〉表紙解説 Sentinel-2衛星画像と深層学習による超解像画像	角田里美	44
〈文献抄録〉リモートセンシング事典	松岡真如	45
〈文献抄録〉EPro-PnP: Generalized End-to-End Probabilistic Perspective-n-Points for Monocular Object Pose Estimation	蘇 姝	46
〈会のうごき〉		48
〈投稿要領・執筆要領・原稿送付状〉		51

表紙説明：超解像とは、解像度の低い画像では不鮮明な細部の情報を復元する技術のことで、テレビや映像の世界で発展している。表紙の背景画像は、Sentinel-2のトゥルーカラー合成画像であり、その中の円で囲まれた画像は、Sentinel-2画像から深層学習により生成した超解像画像である。深層学習を用いた超解像は、学習に基づいて細部を復元する方法のため、復元された情報が必ずしも現実と一致するとは限らないことに留意する必要があるが、概して自然な画像を生成することが可能である。今後、この技術分野の発展によって、農業や環境等の様々な分野への応用が期待される。

表紙背景画像：Sentinel-2衛星画像（10m解像度）

クレジット：Contains modified Copernicus Sentinel data [2021]
processed by Sentinel Hub

表紙円内の画像：超解像画像（2.5m解像度）

©2023 アジア航測株式会社

編集委員

委員長	織田和夫	(アジア航測(株))
委員	石塚直樹	(農業・食品産業技術総合研究機構)
	今井靖晃	(国際航業(株))
	上村治睦	(リモート・センシング技術センター)
	岸本紀子	(国土地理院)
	木寺幸司	(日本測量協会)
	窪田論	(関西大学)
	高橋陪夫	(宇宙航空研究開発機構)
	近津博文	(東京電機大学)
	沼田洋一	(アジア航測(株))
	藤野千和子	(日本写真測量学会)
	布施孝志	(東京大学)
	政春尋志	(元 東洋大学)
	吉野邦彦	(東京大学)
	李 勇鶴	((株)パスコ)
	力丸 厚	(長岡技術科学大学)

本学会のホームページを開設いたしておりますのでご覧ください。

<http://www.jsprs.jp>

E-mail: office-jsprs@jsprs.jp